

令和 6 年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート 概要版

	センター名		活動目標・取り組みのポイント・アピールしたい点
中央区	弁天	計画	地域・団体・関係機関等のネットワークを構築して、身寄りのない方、地域や社会との繋がりがない世帯等の把握や支援に取り組む。社会的孤立・孤立死・情報格差等の減少を目指して、地域訪問・イベント開催・勉強会等を通じて、終活問題・意思決定支援・成年後見制度・身元保証等の周知や啓発に努める。
		実績	身寄りのない方の身元保証、死後事務等の課題や対応方法を検討するため、居宅介護支援事業所、警察、消防、高齢障害支援課、葬儀社など、多職種・他機関と事例検討会を開催した。重点地域では75歳以上を対象に住民アンケートを配布し、回答を民児協・自治会と共有した。他地域では福祉イベントを開催して、認知症、精神疾患、終活事業、防犯、消費者被害の相談支援機関を紹介した。後日、同地区の住民団体と共催して、エンディングノートの書き方講座を実施した。
	中央	計画	複合的な課題を抱える世帯の相談が年々増えてきている（８０５０世帯やヤングケアラー、若年性認知症など）。地域包括支援センターの機能だけでは解決できない課題もあるため、既存のネットワークだけでなく他分野の支援機関ともネットワークを構築し、連携しながら支援できる体制を整える。
		実績	障害や生活困窮、児童分野の関係機関と定期的に会議等で顔を合わせる機会があり、日頃から関係を構築することができた。６５歳未満の人や生活困窮者の相談対応時に構築してあったネットワークを活用し、連携しながら支援することができた。中央区全体の実践報告会を企画し、医療介護だけでなく障害や生活困窮、ひきこもり支援等、様々な関係機関に参加いただくことができた。
	千葉寺	計画	年を重ねても、住み慣れた地域での生活が継続できるよう高齢者の健康寿命の延伸、尊厳ある生活の実現に向け、関係機関と連携していきます。また、孤立させない地域づくりのために、センターの機能の周知を積極的に行い、地域の様々な方々が相談しやすいセンター運営を目指す。
		実績	高齢者の尊厳ある生活の実現や問題の早期解決を目指し、多機関と連携して多様なケース支援を行った。センターの周知を積極的に行ったことで、相談増に繋がった。防災対策や介護予防等については、自助・互助の精神で取り組むことの大切さについて地域住民に向け情報発信を行った。
	松ヶ丘	計画	あんしんケアセンターの周知について、今年度は違った角度で取り組みたいと考えている。家族3世代で各々が生活上の課題を抱えているなどのケースも増えてきているため、高齢者だけでなくすべての世代に向け周知活動を行うことで、ケースが複雑化・深刻化する前の早い段階であんしんケアセンターへ相談いただけることを目指す。
		実績	地域で行われたイベントやお祭りに参加したり、様々な形で認知症や消費者被害の啓発活動を行う中で、多世代に向けてあんしんケアセンターの周知を図ることができた。ビジネスケアラーに関する情報をまとめたものを、地域の掲示板に貼らせてもらい、啓発やあんしんケアセンターの周知を図った。
	浜野	計画	〔活動目標〕SDGsイベントを継続開催する。〔取り組みポイント〕高齢者を含め、多世代にも共通する「フードロス、食糧支援、生活困窮等」の地域課題の解決に向け、普及啓発を行う。〔アピール点〕地域特性を活かし、高齢者の問題解決につながるよう、地域住民や多機関との連携を推進する。
		実績	令和6年7月13日生浜小学校体育館を会場に開催した「SすげゑD大事なG元気なs食事2024」には、参加者・スタッフ総勢113名が集まった。圏域内小学校を会場としたイベントは、今回で全て回ることができた。この活動をきっかけに小学校からも食糧支援の依頼があり、高齢者に限らない地域課題への解決にも繋がっている。
花見川区	こてはし台	計画	こてはし台地域ケア会議にて、多世代交流の拠点づくりに向けた取り組みを話し合い、社会福祉法人オリーブの樹が運営しているコミュニティスペースを活用し、オリーブの樹、こてはし台自治会、社協地区部会、民生委員児童委員等と連携し、活動を展開する。センターでは、認知症カフェを運営し、当事者の希望や必要としている事を把握し、支援につなげる。また、地域ケア会議を開催し、地域組織等の課題把握、解決等も行う。
		実績	コミュニティスペースを活用し、認知症カフェやオリーブの樹主催のオリーブフェスタ等を開催した。自治会やボランティアなど地域の方々の協力を得て、多世代での交流につながった。また、子どもカフェ・子ども食堂がオープンし、自治会等との連携・協力体制の構築ができた。各団体の活動内容や困り事を地域に知ってもらう機会が少ないという地域組織の課題に対し、チラシやSNSなどを活用して発信した結果、地域を支え、つながりの輪を広げていく事となった。
	花見川	計画	疾病・家族や社会と疎遠・孤独・貧困・人付き合いが苦手（認知症や精神疾患）など、経済的・社会的な要因が絡み合った複合的な課題を抱えた相談が増えており、対応している。また、圏域内で地域性の違いがあるため、関係機関を交えながら「ひとりにしない」を目的とした地域の集まりの場などの拠点づくり、および、地域の関係者・サービス事業所と連携した街づくりに力を入れていきたい。 ・３事業合同相談会（障害者基幹相談支援センター・生活自立・仕事相談センター）の継続開催 ・コロナで活動休止していた認知症カフェの定期開催
		実績	３事業合同相談会では高齢・生活困窮の相談はあるも、障害の相談は無かった。しかし、あんしんケアセンターには障害の相談が多いことから、案内の配架先を保健福祉センター健康課や訪問看護、特定計画相談事業所などへ拡大し、令和７年度も継続開催とする。地域ケア会議を認知症の普及啓発に運動させて開催した。住民と協力事業所が協働し、令和７年度より毎月開催に向けて準備を進めている。
	さつきが丘	計画	当事業所は主任介護専門員のみ2名配置であり、地域の介護支援専門員に対する後方支援に力を入れている。介護支援専門員の人材不足が課題となっている中、介護支援専門員業務の魅力の周知と介護支援専門員同士が気軽に相談できる関係になれるよう、人材確保のための橋渡し役となる。
		実績	圏域内の居宅介護支援事業所（9ヶ所）を2回訪問し、事業所の実態調査を行った他、介護支援専門員の悩みごと相談にも応じた。また、今年度の介護報酬改定に伴い、当事業所主催にて勉強会（対面）を開催し、個々のスキルアップを図った他、地域の介護支援専門員同士が顔の見える関係の橋渡し役となった。
	にれの木台	計画	あんしんケアセンターの周知活動を継続して行います。複合的な相談には所内3職種で情報共有し、高齢障害支援課や医療、介護、福祉などの関係機関と連携し問題解決に向け対応する。地域の高齢者が自ら考え行動できるセルフマネジメントの重要性を理解できるように相談時やラジオ体操、健康教室などを通して伝えていく。
		実績	民生委員や自治会と良好な関係性ができ、介入が必要な方へ早期に対応することができた。複合的な課題を抱えている対象者に、高齢障害支援課や生活自立仕事相談センターなどの関係機関と連携しながら対応することができた。地域の集まりでセルフケアの必要性を伝え、事務所前で行っているラジオ体操の参加者も増え、地域住民のセルフケアに対する意識を高めることができた。
	花園	計画	利用者の生活状況全般を理解し、包括三職種の専門性による課題の把握に努め、行政や関係機関と連携しながら支援を行っていく。地域の関係者や生活支援コーディネーターと連携しながら、住み慣れた地域で安心して生活できるように支援を行う。
		実績	今年度、複合的な課題を抱える高齢者世帯や独居世帯の相談が多くあった。それらの相談には、対象の高齢者だけではなく世帯全体の課題の把握に努め、他機関と連携しながら対応に務めた。対応は、緊急度に応じ、できるだけ早期の対応を実施してきた。
	幕張	計画	事態が極度に困窮していたり、複合的課題を抱える相談者は多く、支援体制構築のために他の相談支援機関や専門職者との共同と連携が必須。特に認知症当事者やその家族を中心に居場所づくりを行い、当センターの機能の周知、地域住民に高齢者の生活相談窓口の存在を理解していただくことで、早期相談と早期対応につなげる。
		実績	足掛け３年かけ、集いの場づくりやあんしんケアセンターの周知活動等、内容を検討・実践しながら取り組んできた。事前ワークショップやイベントへの参加者から、活動への満足や継続を期待する発言を受けた。次年度の活動参加者は増える見込みである。
稲毛区	山王	計画	「地域資源の充実を図る」を活動目標とし、圏域の特性を踏まえながら、山王町を中心とした地区は、地域課題の把握と解決を、小中台町を中心とした地区は、地域の方が集まりやすい公的な場所が少ないため、生活支援コーディネーターと連携して地域資源の発掘を目指し活動する。
		実績	山王町を中心とした地区において地域ケア会議を開催し、地域課題の把握と地域福祉の増進を図ることができた。小中台町を中心とした地区においては、生活支援コーディネーターと連携することで民間企業の協力を得、新しい会場での介護予防イベントを開催することができた。
	園生	計画	「人生１００年時代を笑って楽しく過ごすことができる地域作り」が目標である。人が生きていくためには様々な方が支えて成り立っているものと考えている。その為、介護分野には直接関係のない方や団体とも積極的に交流し、どのような方でも「ここで生活できて良かった」と思える地域を目指していく。
		実績	笑って楽しく過ごすことができる地域づくりを目標に、ペット問題、防犯士講座への参加、マルシェの開催等に取り組んできた。介護分野以外のつながりを持つなかで、様々な分野の関係機関が地域力の向上を目指して取り組んでいることを理解することができ、今後の地域づくりに大きな力を得ることができた。
	天台	計画	圏域内の各地域における課題に対してきめ細かく対応することが出来るよう、圏域を萩台・天台・千草台・作草部と4つに分け、それぞれの地域で年に1回以上の地域ケア会議を開催している。今年度も同様に 地域ケア会議を開催し、3職種と生活支援コーディネーターが協力して地域住民に働きかけを行い、各地域の課題解決を図っていく。
		実績	萩台、天台、千草台、作草部にて年に1回以上地域ケア会議を開催することが出来た。特に千草台は2回実施することが出来、URや生活支援コーディネーターと協力しながら地域における通いの場「ひとやすみ」の立ち上げ支援を行うことが出来た。他の地域でも地域課題の共有や、地域住民や専門職、行政機関との関係性作りを強化する事が出来た。

	センター名		活動目標・取り組みのポイント・アピールしたい点
稲毛区	小仲台	計画	2025年を目前に個々の住民が自立した生活が送れるように自ら具体的な課題を見出し、セルフマネジメントできるように支援していきます。そして、地域の災害対策も視野に入れながら、地域の医療、介護、民生委員などの支援者とも連携し、圏域全体で自助、互助への意識をさらに広めていきます。
		実績	想定通りの要支援認定者、事業対象者の増加に伴い、総合事業、介護予防サービス利用の待機者が発生している状況で、圏域にある通いの場などインフォーマルサービスの利用を生活支援コーディネーターと共にマッチングし、その後のモニタリングを行うことが出来た。
	稲毛	計画	コロナ禍前の地域活動が再開できるよう各機関との連携を強化し、多くの方に介護予防の必要性を実感してもらい、住民同士の繋がりを持ってもらえるよう普及啓発活動に取り組んでいく。また多世代交流が持てるよう地域のイベントに企画から参加することで、地域資源の情報を把握すると共に、地域の中で活用される支援を進める。
		実績	地域ケア会議を通じ住民との意見交換から地域課題を確認した。地域課題に対し地域にあった講座やイベントを開催することができた。また地域住民同士の顔の見える関係を構築することを目的とした体操教室を新規開催または再開することもできた。そして複数の講座を実施したことが関係機関との連携を図り地域との繋がりを持つことになり、支援の強化につながった。
若葉区	みつわ台	計画	【計画】住み慣れた地域で暮らすことの出来る地域づくりを構築する。 【具体策】①地域ケア会議を開催し、そここの地域性及び地域課題を把握する。②民生委員や支えあいの会の定例会に参加。ミニ講話等を開催し、介護予防や権利擁護、介護保険の周知を行う。③近隣の企業に協力してもらいパンフレットを設置し、あんしんケアセンターの周知活動をする。
		実績	・地域ケア会議を開催したり、町内会及び民生委員に協力してもらい住民にアンケートを実施し、地域課題を把握した。 ・民生委員や支えあいの会の定例会に参加し、終活のミニ講話や健康測定会を開催した。また、消費者被害や感染症等についても周知した。 ・近隣のスーパーやコンビニ、薬局等に協力してもらいパンフレットを設置しあんしんケアセンターの周知活動を行った。
	都賀	計画	住民一人ひとりが自主的に介護予防の意識を持ち、高齢者が安心して生活ができるように、生活支援コーディネーターと連携し、介護予防講座や地域の活動団体への支援を行い、インフォーマルサービスの定着と、地域住民や関係団体とのネットワーク構築を図る。
		実績	包括3職種の配置人員数が満たないなか、若葉区高齢障害支援課をはじめ他機関や区内あんしんケアセンターの協力を得ながら、支援を必要とする地域住民への適切な対応に取り組むことができた。生活支援コーディネーターも不在となる1年間であったが、1層SCと社協若葉区事務所にも協力いただき、これまで構築してきた地域の支援者等との繋がりに支えられ、介護予防や認知症サポーター養成講座を開催する等、関係性を維持することができた。
	桜木	計画	専門職の知識や技能を生かし、チームアプローチで高齢者を支え包括的に支援する。また相談者の気持ちに寄り添い、迅速で丁寧な対応を実践する。さらに業務が円滑にできるよう、日頃より関係機関との連携、ネットワークの充実を図るため、地域に積極的に出向いて関係の強化を図る。
		実績	相談内容に対し、専門職で検討し、状況により関係機関と連携を図ることで迅速で丁寧な対応ができた。また、地域に積極的に出向いて関係を強化した。
	千城台	計画	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、多様化、複雑化する様々なニーズに対して包括3職種が連携し、課題解決に向けた適切な支援を行う。また、高齢者の自立支援に向けて、関係機関との連携を強化により、地域課題の共有や検討、地域課題解決に向けた地域資源の創出に取り組む。
		実績	総合相談は包括3職種が連携相談のうえ、内容により関係機関と情報共有しながら課題解決に必要な支援を行った。圏域で増加傾向にある認知症相談に関する対応として、社協御成台、千城台西北地区部会主催の認知症サポーター養成講座を開催、また、社協千城台東南金親地区部会主催の認知症カフェ立ち上げ支援を行い、本年6月に立ち上げとなった。
	大宮台	計画	高齢化率46%を越える圏域である。3年前の1.4倍と、増え続ける総合相談に3職種が緊急性を考慮しながら協働して対応する。地域住民のニーズに応じて介護予防の出張講座を行う。幅広い世代に認知症養成講座を行い、地域の見守り体制を強化していく。
		実績	1日平均8件ほどの総合相談を3職種が協力して対応している。1月より泉市民センターにて月1回の出張相談を開始。幅広い年齢層に認知症を知ってもらうために、中学校を含め認知症サポーター養成講座を3回、住民のニーズに応じた認知症講座を4回、介護保険説明会を5回行った。
緑区	鎌取	計画	・積極的なアウトリーチにより個々の高齢者が抱える潜在的ニーズの発見に努める。 ・高齢者の抱える複合的な課題については他職種連携や他職種協働により早期解決に努める。 ・地域ケア会議の開催を通じ、地域課題の把握や政策提言を行う。
		実績	・訪問による相談対応を積極的に行い、生活環境の把握と潜在的ニーズの発見に努めた。 ・複合的な課題を抱える高齢者の増加に伴い、関係機関との連携を意識し、早期の課題解決に努めた。 ・地域ケア会議を開催し、個別課題の支援について共有を図った。
	菅田	計画	・身近で気楽に相談ができるように、電話連絡後、迅速に訪問をし、相談対応をする。 ・多問題家族も増えている為、高齢者のみならず、家族全体に視点を向けて、他機関ともスムーズな連携を図っていく。 ・介護予防の為通いの場に参加しやすいような資料を作成し、周知し、参加の促しをしていく。
		実績	・出張相談会を3回開催し気軽に相談できる場所を提供した。寄せられた相談には迅速に多職種で関わる事ができた。 ・生活困窮者支援機関や障害者支援機関と連携して支援にあたる事ができた。同時に家族の持つ力にも着目した支援を提供できた。 ・介護予防のための資料を作り、相談者に紹介して、参加につながった。資料は第1層SCと共有している。
	土気	計画	高齢者やその家族が抱える複雑多様化した生活課題に対し、関係機関と協働し、制度横断的な対応を取りながら、家族全体を支援する体制づくりに取り組む。対応事例の積み重ねから抽出された地域課題について、地域ケア会議で関係機関や地域の関係者と共有し、課題への対応策を共に検討する。
		実績	複雑多様化した生活課題に対して関係機関、多職種とのチームアプローチにより家族全体の課題解決に向けた支援を行った。家族全体を支援する体制づくりの為多機関、多職種と地域ケア会議を調整するなど積極的に関係機関へ働きかけができた。
美浜区	真砂	計画	①要支援のケアプランチェックリストを作成し、ケアマネジャーへの指導助言を平準化、民間サービスの活用を促す。 ②医科・歯科未受診、介護認定未申請のハイリスク高齢者へのアプローチを健康課と共に行う。 ③真砂地区の認知症カフェ立ち上げ支援、後方支援
		実績	①要支援のケアプランチェックリストを作成、包括専門職のケアマネジャーへの指導助言を平準化、プラン作成研修と併せて民間サービスの活用を促すことができた。 ②健康課で把握した未受診、介護認定未申請のハイリスク高齢者1名について、介入履歴等の情報提供を行った。 ③認知症カフェ「ふうせんかずら」を11月に立上げ、運営ボランティアの後方支援を行った。8月からのプレ開催を含め、月1回の開催で25名が登録、延べ106名が参加した。
	磯辺	計画	・高齢者自らが、介護予防に取り組めるように、介護予防普及啓発及び住民活動の支援を行う。 ・介護予防手帳を活用し、体力測定やチェックリストをする。高齢者自身が自分の状況を確認できるようにする。
		実績	・介護予防のための通いの場を幕張西、磯辺と住民や事業所と立ち上げた。従来場においては住民が活動を継続できるようモニタリングをしながら支援した。 ・定期的な体力測定などにおいて、介護予防手帳を活用し、高齢者自身が自分の変化に気が付くように面談を行いながら説明した。
	高洲	計画	①孤立化する高齢者の増加に対して、地域資源やコミュニティへつなげる予防活動や後見制度の普及に努め、課題解決のために地域の関係機関と連携を図る。 ②介護認定後のサービス利用に時間を費やしていることに対して、地域資源の発掘、普及啓発に努め地域の特色を活かした支援を目指していく。
		実績	①それぞれの問題解決に向けて関係機関とのネットワーク作りが出来た。また専門職の会議や研修に参加する機会が多かったため、今後の連携につながった。 ②生活支援コーディネーターと情報共有し、公的サービスに捉われない地域資源の活用について広い視野を持てた。
	幸町	計画	①個別課題や地域課題の解決のため、多種多様な専門職や関係機関と連携し課題解決に取り組む。 ②地域の発展のため、住民や関係機関と日頃から連携し、多世代交流や地域活動を促進する。
		実績	①個別課題や地域課題の解決のため、地域の関係機関や市区担当課、各種専門相談機関と連携を図り課題解決に取り組んだ。 ②生活支援コーディネーターと協働し、サークルの立ち上げ、イベント開催、認知症サポーター養成講座などを行い、多世代交流や地域活動を支援した。